

わたげちゃんの ぼうけん



さく え みどり
作・絵 未彩

わたげちゃんの
ぼうけん



春の やわらかい 日差しの中、
たんぼぼの わたげちゃんが
ゆらゆらとおひるねをしていました。

わたげちゃんはびっくりして言いました。
「あ、ぼく空をとんでるみたい。」

そこへこねこが走ってきたので
わたげちゃんは空へフワっと
まいあがりました。



こねこは言いました。

「あらわたげちゃん こんにちは。

そうよ、わたげちゃんは風^{かぜ}にのって空^{そら}をとべるのよ。

それにしても今日^{けふ}はなんて気持ち^{きもち}がよいのでしょう。

わたしはこんな気持ち^{きもち}のよい日^ひには

こころもからだもよろこびでいっぱいになって
じっとしてられないのよ。」



「へえー、こころもからだもよろこびで
いっぱいになるなんてすてきななあ。」
わたげちゃんは空^{そら}を見てつぶやきました。

そしてとつぜん、
「よし決めた！ぼくじめんにおちないぞ！
これからぼくのよろこびを見つけに
ぼうけんに行くよ。」

そう言う^いとわたげちゃんはヒューッと風^{かぜ}にのって
とんでいきました。

「さよならー、こねこさーん。」



わたげちゃんは お花畑に きました。

お花畑では ちょうちょうが うれしそうに とんでいます。

「あまーい あまい お花の みつ。お花さん ありがとう。」

「みつの においは いいに おい。あまくて やさしい

すてきな におい。」

わたげちゃんは ちょうちょうに 言いました。

「こんにちは、ちょうちょうさん。楽しそうだね。」

「あら わたげちゃん、こんにちは。

ええ、とても 楽しいわ。

こうして お花から みつを もらえる ことは

さいこうの よろこびよ。」

すると お花も 言いました。

「わたしたちも ちょうちょうさんが みつを すいに きて

くれる ことが よろこびなのよ。わたしたちは

動けないから ちょうちょうさんに 花粉をはこんで

もらうのよ。

ちょうちょうさんたち ありがとう。」

そんな ちょうちょうと お花の 話を 聞いて

わたげちゃんは やさしい 気持ちに なりました。

すると あまく やわらかい 風が

わたげちゃんを はこんで きました。

